

②馬屋について

主屋の南東側に西面して建つ、桁行11.8m、梁間5.5mの茅葺屋根で寄棟造の南北棟です。正面には、奥行き約2.4mの^{さんがわらぶき} 棧瓦葺の土庇が付き、背面には、茅屋根を葺き降ろした奥行き約0.9mの庇があります。西面中央に1間（約1.8m）の入口があり、建物内に入って手前側の1間分が土間、奥側の1間半が板床張りの「モノ置場」で、その両側2.5間四方が馬房でした。馬屋内には市登録文化財である、明治時代の本製半唧筒ポンプ（消火ポンプ）などがあります。

建築年代は、残されていた祈祷札から明治21年（1888年）と考えられています。



③表門について

馬屋の南西脇にある、寄棟造の茅葺の長屋門です。規模は、桁行11.5m、梁間4.5mで、正面やや東寄りの位置に幅約3.3mの入口があり、入口東側に1室（2間四方）、西側に2室（南北2.5間×東西2間、南北2.5間×東西3間）が設けられています。また、門の東端には4間、西端には1.5間の袖塀が付属しています。

詳しい建築年代は不明ですが、馬屋と同じ明治時代中頃と推定されています。



④米 蔵

表門前の道路を挟み南東側に位置する、桁行7.3m、梁間4.5mの平屋造りの土蔵です。屋根は防火を意識した置屋根（天井も含め建物全体を土で覆った後に屋根を置くもの）の形式で、切妻造の棧瓦葺きです。西面の妻側に出入口があり、棧瓦葺きの庇が付けられています。外壁は漆喰や一部黒漆で仕上げられ、腰は墨塗の下見板が付けられています。

米蔵は、棟札により明治14年（1881年）に建築されたと考えられています。



⑤座敷蔵

主屋の北側、味噌蔵の西隣にある、桁行7.3m、梁間4.6mの二階建ての土蔵です。屋根は置屋根の形式で、切妻造の棧瓦葺きです。南面の妻側に出入口があり、一階北面と二階東面に開口部が設けられています。外壁は腰までが凝灰岩の切石で、腰から上部が漆喰で仕上げられています。また、外壁の四隅と鉢巻上部は、海鼠瓦貼りとなっています。

建築年代は大正時代～昭和初期にかけてと伝わっています。



⑥味噌蔵

主屋の北側、座敷蔵の東隣にある、桁行6.8m、梁間4.5m（庇を除く）の二階建ての土蔵です。屋根は切妻造の棧瓦葺きで、置屋根の形式ではありません。南面の中央に出入口があり、下屋状の大きな庇が付く。基礎部には切石を三段積み、外壁は漆喰仕上げされています。

建築年代は明らかではありませんが、座敷蔵と近い時期のものと考えられています。





●交通案内

- JR名取駅から約4km
- 車：名取駅方面から約15分、名取IC方面から約10分
- バス：なとりん号 関上線 多賀社前バス停下車 徒歩5分

●見学等について

- 重要文化財 洞口家住宅は、個人所有の文化財です。見学等については、事前に所有者への連絡が必要となります。詳しくは、下記へおたずね下さい。

お問い合わせ：文化・スポーツ課 文化財係
022-724-7176

平成29年3月 名取市教育委員会発行

重要文化財 洞口家住宅

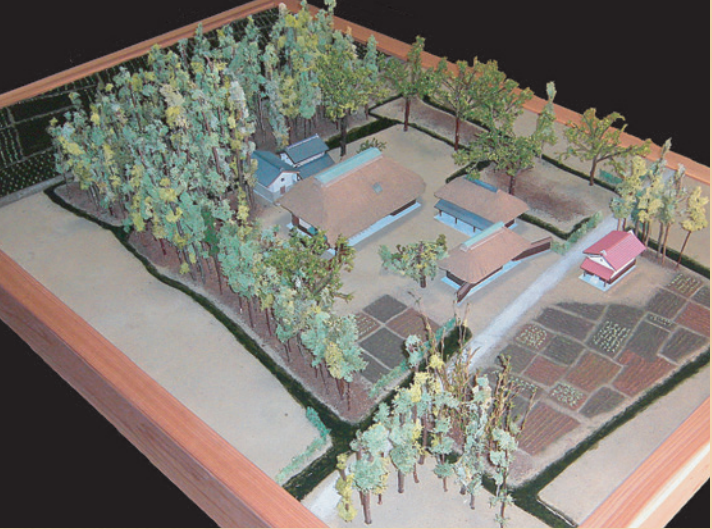


【基本情報】

- 名称：洞口家住宅
- 文化財の種別：建造物
- 場所：宮城県名取市大曲字中小路26ほか
- 所有者：洞 口 京 一、一部名取市

○指定年月日

- 主 屋：昭和46年12月28日
- 馬屋・表門・敷地・祈祷札：昭和60年5月18日
- 米蔵・座敷蔵・味噌蔵・敷地：平成24年7月9日



重要文化財 洞口家住宅は、JR名取駅から東へ約4kmの大曲地区にある大型の農家住宅です。

屋敷地は約8,200㎡と広く、周囲は幅約3mの堀や、「いぐね」と呼ばれる屋敷林に囲まれています。

敷地の中央付近に建つ主屋は、宝暦年間（1751～1763年）以前の建築と考えられ、当時の名取地方の特徴が良くあらわれた仙台藩屈指の茅葺の大型農家で、昭和47年に重要文化財に指定されました。その後、主屋と共に、屋敷全体の景観や雰囲気伝える重要な要素として、茅葺の馬屋・表門の他、3棟の蔵（座敷蔵・味噌蔵・米蔵）、堀や「いぐね」を含めた屋敷地なども追加指定されています。

1. 洞口家住宅と洞口家について

洞口家住宅がある大曲地区は、洞口家のように周りを大きな堀で囲った屋敷地が、一部の堀を共有しながら複数集まっている環濠集落^{かんごうしゅうらく}で、このような屋敷の区割りは、中世の集落にも良く見られるものです。

洞口家の由緒について詳しいことは分かっていませんが、家伝によれば、中世には大曲郷の領主小野氏の「館家老役」を務めたとも言われ、同家の屋敷も古くから「たてやしき」・「たてのい（家）」と呼ばれた旧家と伝えられています。江戸時代には父祖の地である大曲で帰農して住み着き、地区の名主を務めたと考えられ、明治14年頃には、仙台市中田周辺から市内上余田・下余田・大曲などに数十町歩の土地を持つ大地主になりました。

